

総 評

数学がたいへん難しく、社会もやや難しめで、全体として難易度の高い出題となりました。

道コンのような試験は、受験して結果を見ただけでは半分の価値しかありません。自分のミスの傾向や弱点に気づき、間違えた問題の解き直しをして、克服してこそ受けた価値があるのです。また、正解した問題であっても、解説を読んで自分のやり方とはちがう解き方や考え方に気付くこともあります。新たな考え方を身につければ、得意分野をさらに伸ばすこともできます。

入試では、不注意によるミスをどれだけ減らし、得意分野でどれだけ得点を積み上げられるかが重要なポイントになります。今回の問題を存分に活用して、得点力アップに役立ててください。

国 語

標準的な出題でした。

㊦は、問六(2)と問六(3)①の得点率が低くなりました。特に、問六(3)①は、本文と【資料】の内容を比較する問題であったため、難しかったと思われます。複数の文章を用いた問題に慣れておくといよいでしょう。㊦と㊦は、比較的よくできていました。ただし、㊦の問四(1)の得点率がやや低くなりました。「愛の告白」が指す内容を答える問題ですが、「愛の告白の返事」が指す内容を答えているものが多くありました。「の返事」の部分は余計なため、解答には必要ありません。問題文で問われていることを、正確にとらえるようにしましょう。㊦は、問一の得点率がやや低くなりました。このような知識を問う問題は、高校入試でも出題されます。配点は少ないですが、取りこぼさないよう復習が大切です。

数 学

㊦と㊦を中心に得点率が予想を大きく下回り、たいへん難しい出題となりました。読解の分量も多く時間が足りなくなった人も多かったようです。

㊦では問1(2)や問4で得点率が予想外に低くなりました。思い込みによるミスに注意しましょう。㊦、まずは用語の意味をしっかり覚えましょう。㊦は図形の規則性を式で表す問題ですが、説明が少なくわかりにくかったようです。㊦問2は2点を通る直線の式を求める問題でしたが、切片を正しく求められていない答案が目立ちました。㊦は証明の目的である「PRQSは平行四辺形である」を証明に利用するなど、使ってよい条件が整理されていない答案が目立ちました。証明の方針は正しくても、根拠が不十分な答案も目立ちます。証明を得点源にできるまで、あと一歩ですよ！

社 会

やや難しい出題でした。

地理分野では、㊦問1(2)の時差の問題や、㊦問2、問4(1)など資料を利用した問題の得点率が低くなりました。資料を読みとる問題は、問題の文と資料を照らし合わせれば確実に正解できるので、丁寧に確認するようにしましょう。

歴史分野では、㊦問3(3)の得点率が非常に低くなりました。資料2を日米修好通商条約と判断し、開いた港を略地図から選ぶ問題でしたが、日米和親条約で開いたウ(下田)を選んだ解答が多く見られました。また、㊦問1、㊦問3の年代並べかえ問題の得点率も低くなりました。近現代の歴史は苦手な人が多いので、教科書や参考書などの年表を利用して歴史の流れをおさえておきましょう。

理 科

標準的な難易度の出題でした。

㊦は基本的な内容の出題です。間違えた問題や、迷った問題はしっかりと復習して、基礎固めをしておきましょう。㊦の問1は、よく見られるものとは異なる形で分類するものでしたが、文章を読み取って適切な操作をできた人が一定数いたようです。㊦の問1(1)は計算問題ですが、基本的な内容です。計算自体は難しくありませんので、しっかりと復習し確実に得点できるようにしましょう。㊦の電気回路は、問2(1)はできていたものの他の得点率が低く、特に問2(4)が難しかったようです。並列回路と直列回路の電圧と電流の関係をもう一度確認してください。㊦は全体に得点率が低めになりました。問3はよく出題される内容です。しっかりと復習しておきましょう。

英 語

標準的な難易度の出題でした。

㊦は比較的よくできていました。問4は今年の入試と同様の出題形式で、英文を正確に聞き取り、空欄に当てはまる内容を適切に表現する力が求められました。(1)・(2)では単数形の誤りが目立ちました。(3)では、質問の内容を考えて表現する力が求められました。㊦は基本的な文法項目の出題でした。確実に得点しておきたい分野です。㊦Bのスピーチ文の問題は設問によって得点率が低くなりました。㊦Cの会話文の問題は空欄補充の問題で得点率が低くなりました。㊦の英作文で減点となった人は、動詞の形、冠詞、三単現、複数形などの不備がないかを確認しましょう。英作文の内容にこだわることはもちろん大切ですが、スペルミスや文法ミスのない英文を書くことも大切です。